

平成 23 年度

# 病害虫発生予報第 6 号

平成 23 年 10 月 20 日

## 三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ <http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

## 目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	5
4. 予察項目の見方	8
5. 今月のトピックス（トマトすすかび病について）	9
6. 気象のデータ	10
7. おしらせ	12

### 1. 向こう 1 か月の予報と対策

#### 1) 果樹

カンキツでは、ミカンハダニの発生量はやや少と予想されます。

#### 2) 茶

チャでは、カンザワハダニの発生量はやや少と予想されます。

#### 3) 野菜

トマトでは、疫病の発生量は平年並と予想されます。

イチゴでは、炭疽病の発生量は多と予想されますので、圃場での発生に

注意し、罹病株の除去を徹底してください。うどんこ病の発生量は平年並、ハダニ類の発生量はやや少と予想されます。

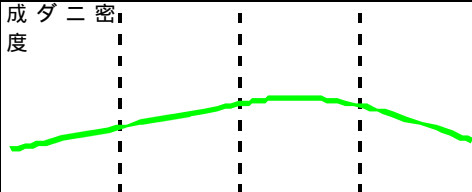
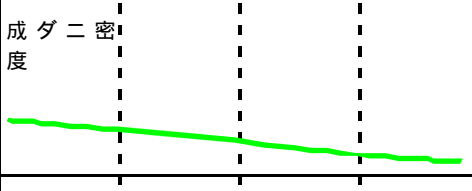
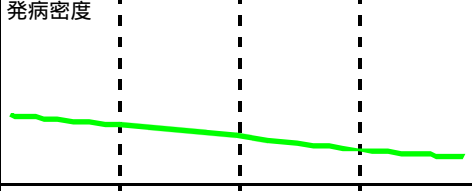
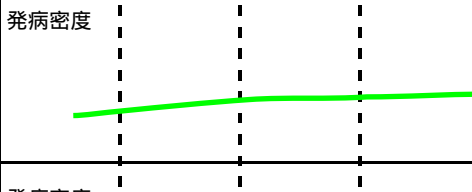
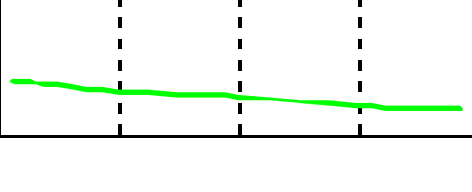
ハクサイでは、白斑病の発生量は平年並と予想されます。

キャベツでは、黒腐病の発生量は平年並と予想されます。

ネギでは、ネギコガの発生量は平年並、シロイチモジヨトウの発生量は少と予想されます。

野菜共通では、コナガ、ハスモンヨトウの発生量はやや少と予想されま  
す。

## 2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						10月	11月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	ミカンハダニ	-	やや少	中	普通	成ダニ密度 				<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1葉当りのハダニ雌成虫数が、0.5～1.0頭にならなければ防除の必要はありません。</li> <li>2) 中晩柑類で袋かけをする品種では、作業にかかる前に必ず発生状況を確認し、必要に応じて防除を行ってください。</li> </ol>
チャ	カンザワハダニ	-	やや少	小	普通	成ダニ密度 				<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 台風等によりかなり少なく推移していますが、圃場によっては、寄生が見られます。</li> <li>2) 葉裏に生息するため、丁寧な散布が重要です。</li> <li>3) 抵抗性が発達しやすいため、同一系統の薬剤の散布は年1回程度にとどめて下さい。</li> </ol>
トマト	疫病	-	平年並	小	普通	発病密度 				<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 発病後の病徴の進展が非常に早いので、初発生を確認した場合には集中的に薬剤散布をしてください。</li> <li>2) 20度ぐらいの比較的低温で多湿条件の時に発生が多くなります。病原菌は被害植物の残渣とともに土の中に残り、伝染源となります。被害株および枯死株は圃場外に持ち出し処分してください。</li> </ol>
イチゴ	うどんこ病	-	平年並	小	普通	発病密度 				<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ビニールの被覆後、発生が増加します。</li> <li>2) 予防防除に重点をおいて薬剤散布をしてください。</li> <li>3) 発病を認めたときは、葉裏に薬液がかかるよう、下葉を除去して丁寧に防除してください。</li> </ol>
	炭疽病	-	多	大	普通	発病密度 				<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 感染した苗は、本圃定植後に発病します。</li> <li>2) 発病株は除去し、圃場外へ持ち出して適切に処分してください。</li> </ol>

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項	
			発生量	程度		発生量	発生消長の一例				
							10月	11月			
発生時期	発生量	程度	発生量	10月	11月	11月	11月	11月			
発生時期	発生量	程度	発生量	10月	11月	11月	11月	11月			
イチゴ	ハダニ類	-	やや少	小	普通	成ダニ密度					<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 天敵を利用する場合は、発生密度の低いうちに導入し、農薬は天敵への影響を考慮して使用してください。</li> <li>2) 薬剤防除では、発生を確認したらできるだけ早期に防除してください。</li> <li>3) 薬剤をかかりやすくするため下葉を除去し、葉裏までしっかりと散布してください。</li> <li>4) 抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。</li> </ul>
ハクサイ	白斑病	-	平年並	中	普通	発病密度					<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 秋から初冬にかけて、雨の多い時期に多発する傾向があります。</li> <li>2) 肥料切れすると発病を助長するので注意してください。</li> <li>3) 発病初期の薬剤防除を徹底してください。</li> </ul>
キャベツ	黒腐病	-	平年並	小	普通	発病密度					<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 土壌中の病原菌が雨滴などにより葉に飛散し、感染します。降水量が多いと感染することが多いので、大雨後や特に冠水したときは、速やかに薬剤防除をしてください。</li> <li>2) 発病株を放置すると翌年の伝染源となるので、圃場外に持ち出して処分してください。</li> </ul>
ネギ	ネギコガ	-	平年並	小	普通	幼虫密度					<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 幼虫が葉の内部に潜るので、潜入防止のため、発生初期から防除をしてください。</li> </ul>
	シロイチモジヨトウ	-	少	小	低	幼虫密度					<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 若齢幼虫から葉の内部に侵入し、内側から表皮を残して食害します。</li> <li>2) 老齢になるに従って薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫のうちに防除してください。</li> <li>3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。</li> </ul>

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
			平年比	程度		10月	11月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
野菜共通	コナガ	-	やや少	小	普通	幼虫密度 				1) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。 2) 冬でも緩やかながら生育を続けて加害します。
	ハスモンヨトウ	-	やや少	中	普通	幼虫密度 				1) 老齢幼虫に対しては防除効果が劣るので、若齢幼虫のうちに防除を行ってください。 2) 新芽部を食害されると、生育や収量への影響が大きいため、適期防除に努めてください。 3) 施設ではハウスのパイプや換気口周辺などの資材にも産卵するので、注意してください。

### 3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報（10月14日発表）によると、気温は低くなく(+)、降水量は少なくない(-)予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃（10月中旬）では、100葉当り寄生虫数は無防除区で46.7頭（平年44.0頭）と平年並(±)、慣行防除区で22.2頭（平年46.2頭）とやや少(-) (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場（10月第2週）では、寄生葉率は0.9%（平年5.4%）と少、寄生頭数は0.01頭/葉（平年0.11頭/葉）と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少～平年並（概してやや少） (-)</p> <p>考察： 現状の発生量はやや少と思われ、大きな増減の要因はないので、予想発生量はやや少と考えます。</p>
チャ	カンザワハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報（10月14日発表）によると、気温は低くない予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃（10月上旬）では、寄生葉率は2.0%（平年4.0%、ただし5か年は0%）とやや多、寄生頭数は0.04頭/枚（平年0.24頭/枚、ただし5か年は0頭/枚）とやや多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場（10月第2週）では、寄生葉率は0.4%（平年0.9%）と少、寄生頭数は0.01頭/枚（平年0.23頭/枚）とやや少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察： 巡回調査結果と一般圃場の状況を重視して、現状の発生はやや少と思われ、気象による今後の増加を考慮しても、予想発生量はやや少と考えます。</p>
トマト	疫病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場（10月第2週）では、発病株率は0%（平年0%）と平年並に少 (±)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は無～平年並に少（概して平年並） (±)</p> <p>考察： 現状の発生量は平年並に少と考えられ、大きな増加要因がないので、予想発生量は引き続き平年並と考えます。</p>
イチゴ	うどんこ病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報（10月14日発表）によると、気温は低くなく、降水量は少なくない予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場（10月第2週）では、発病株率は0%（7年平均0.3%）と平年並に少の傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無～平年並に少（概して平年並） (±)</p> <p>考察： 現状の発生量は平年並に少と考えられ、今後の気象条件による増加を考慮しても、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	炭疽病	-	多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(10月14日発表)によると、気温は低くない予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第2週)では、発病株率2.8%(平年0.3%)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並~多(概してやや多) (+)</p> <p>考察: 現状の発生量は多と考えられ、予想発生量は引き続き多と考えます。</p>
	ハダニ類	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(10月14日発表)によると、気温は低くなく(+)、降水量は少なくない(-)予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第2週)では、寄生株率は3.3%(7年平均5.8%)、発生程度は1.0(6年平均2.7)と少の傾向 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられ、大きな増加要因がないため、予想発生量は引き続きやや少と考えます。</p>
ハクサイ	白斑病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(10月14日発表)によると、気温は低くなく、降水量は少なくない予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第2週)では、発病株率は8.2%(平年7.1%)、発病度は2.1(平年1.8)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられ、今後の気象条件による増加を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
キャベツ	黒腐病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(10月14日発表)によると、気温は低くなく、降水量は少なくない予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第2週)では、発病株率は0%(平年0.1%)、発病度は0(平年0.02)と平年並に少 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無~平年並に少(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少と考えられ、今後の気象条件による増加を考慮しても、予想発生量は引き続き平年並と考えます。</p>
ネギ	ネギコガ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ(9月第4半旬~10月第3半旬)では、誘殺数は27頭(平年15.3頭)と多 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第2週)では、被害葉率は0.2%(平年0.5%)と平年並に少 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無~平年並に少(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少と考えられ、予想発生量は引き続き平年並と考えます。</p>
	シロイチモジヨトウ	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(10月14日発表)によると、気温は低くなく(+)、降水量は少なくない(-)予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(9月第4半旬~10月第3半旬)では、誘殺数は39頭(平年86.0頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(10月第2週)では、被害葉率は2.8%(平年4.9%)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察: 現状の発生量は少と考えられ、予想発生量は引き続き少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
野菜 共通	コナガ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(10月14日発表)によると、気温は低くなく(+)、降水量は少なくない(-)予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(9月第4半旬~10月第3半旬)では、誘殺数は11頭(平年12.5頭)とやや少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(10月第2週)では、キャベツの寄生株率は0.8%(平年1.8%)、寄生頭数は0.01頭/株(平年0.03頭/株)と少、ハクサイの寄生株率は0%(平年0.2%)、寄生頭数は0頭/株(平年0.01頭/株)と平年並に少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられ、予想発生量は引き続きやや少と考えます。</p>
	ハスモンヨトウ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(10月14日発表)によると、気温は低くなく(+)、降水量は少なくない(-)予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(9月第4半旬~10月第3半旬)では、誘殺数は1630頭(平年1926.3頭)とやや少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(10月第2週)では、キャベツの寄生株率は0.4%(平年5.1%)と少、ハクサイの寄生株率は0%(平年0.7%)と少、イチゴの寄生株率は1.3%(平年1.9%)とやや少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられ、予想発生量は引き続きやや少と考えます。</p>

## 4. 予察項目の見方

### 1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6
評価	早	やや早		平年並				やや遅		遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

			平年値 ↓			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並	やや多	多	

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていればよいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

### 2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

（±）：平年並の要因

（+）：発生量増加または発生時期遅延の要因

（-）：発生量減少または発生時期早期化の要因



## 5. 今月のトピックス 「トマトすすかび病について」

### 1. トマトすすかび病とは

近年、トマトの施設栽培において、トマトすすかび病の発生が全国的に問題となってきています。三重県では平成 16 年に初めて発生が確認されており、現在までに 24 府県で特殊報が発表されています。本病は、トマトとミニトマトで発病することが知られており、真夏から秋にかけて発生が多い傾向にあります。

### 2. すすかび病と葉かび病の違い

すすかび病とよく似た症状を示す病害として葉かび病があります。共に葉に発病しますが、すすかび病は、葉裏の病斑に黒褐色の平面的なカビを生じます。一方、葉かび病は、葉裏の病斑に灰白色の立体的なカビを生じます（図 1）。しかし、すすかび病と葉かび病は病徴が非常によく似ているため、肉眼で判別することは大変困難です。このため、確実に区別するためには、顕微鏡で分生子（孢子）の形態を観察する必要があります。すすかび病の分生子は棒状であり、葉かび病の分生子よりはるかに長いことが特徴です（図 2）。どちらの病害か判別できない場合は、病害虫防除所や普及センターなどの関係機関に連絡し、相



図 1 すすかび病および葉かび病の病徴（農業研究所原図）

談してください。なお、最近は葉かび病抵抗性品種が導入されていますが、すすかび病はこれらの品種でも発病します。



図 2 すすかび病および葉かび病の分生子（農業研究所原図）

### 3. 発病しやすい条件と防除方法

すすかび病菌はカビの一種であり、多湿条件の施設栽培で発生しやすくなります。そのため、密植や過繁茂を避けるとともに、施設内の換気に努めてください。また、病原菌は被害植物の残渣で越冬し、翌年の伝染源となるため、被害葉や被害残渣は圃場外に持ち出して適切に処分してください。

薬剤防除については、予防に重点をおいて定期的に行ってください。薬剤に対する感受性低下を防ぐため、ローテーション散布を心がけることも大切です。

## 6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報（平成 23 年 10 月 14 日 名古屋地方気象台発表）

東海地方の向こう 1 か月は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

1 週目 10月15日～ 21日	期間のはじめと終わりは、気圧の谷や前線の影響で雲が広がりやすく、雨の降る日がありますが、中頃は高気圧に覆われて概ね晴れる見込みです。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 1.8日・4.3日
2 週目 10月22日～ 28日	天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	同 1.7日・4.3日
3～4 週目 10月29日～ 11月11日	低気圧と高気圧が交互に通りに、天気は数日の周期で変わるでしょう。	同 3.1日・8.7日

東海地方週間天気予報（平成 23 年 10 月 19 日 10 時 30 分 名古屋地方気象台発表）

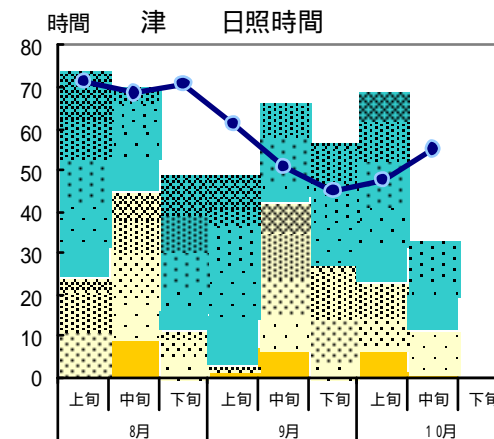
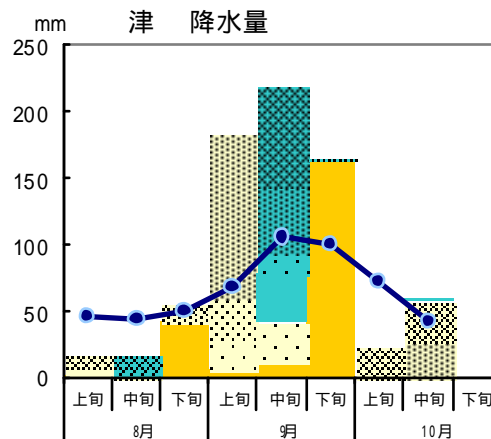
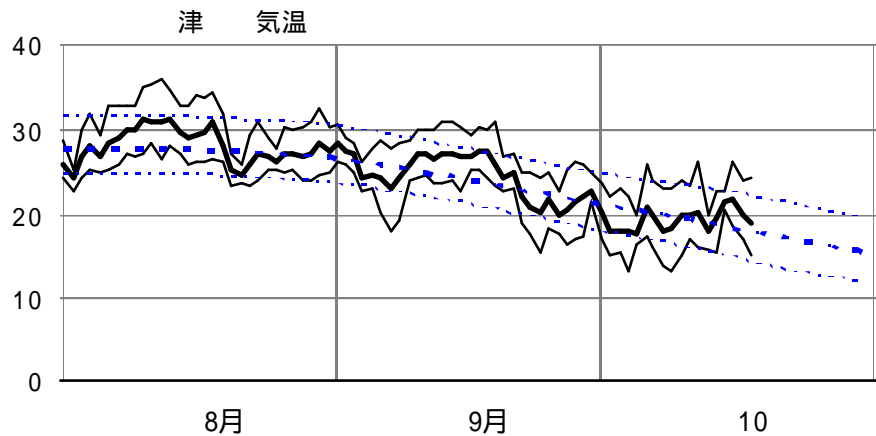
予報期間 10月20日～10月26日

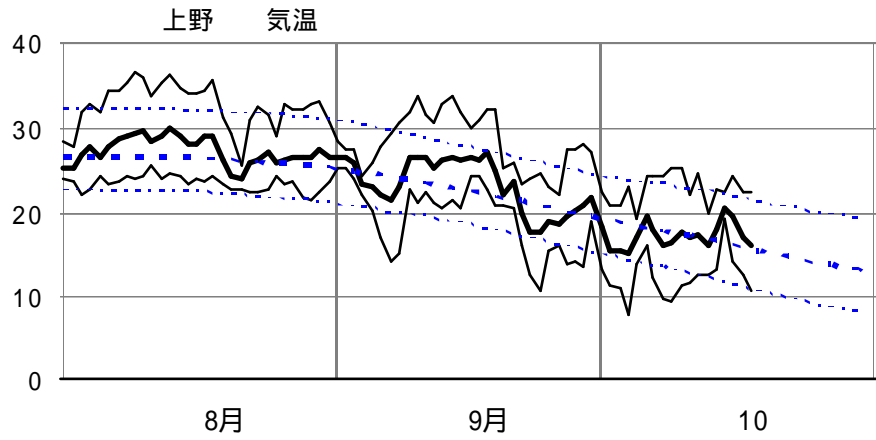
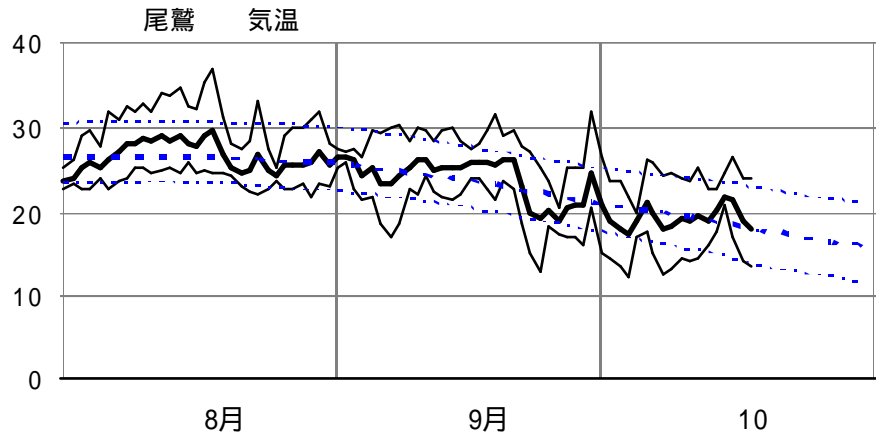
向こう一週間は、期間のはじめと終わりは高気圧に覆われて概ね晴れますが、中頃は気圧の谷や寒気の影響で雲が広がりやすく、雨の降る日があるでしょう。

最高気温と最低気温はともに、期間の中頃にかけて平年より高いですが、終わりは平年並か平年より低い見込みです。

降水量は平年並でしょう。

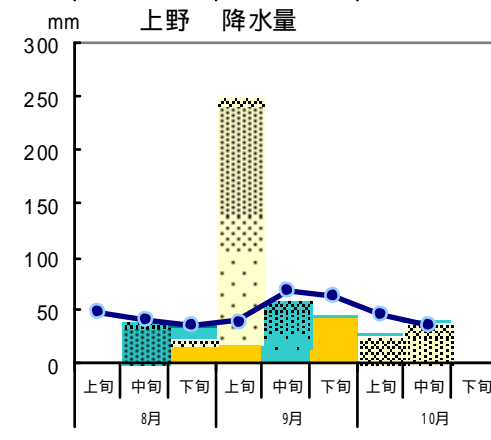
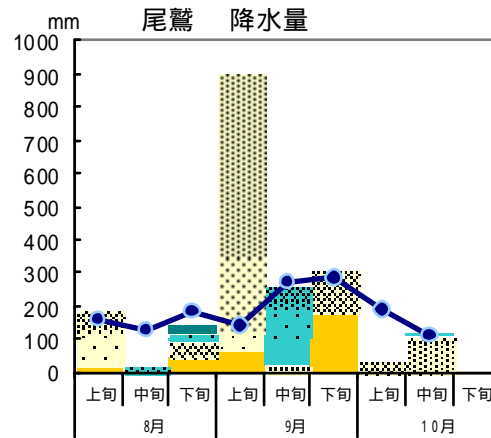
気象の日別推移（気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etm/index.php> から作成、5月18日に平年値が変更されました）（10月18日まで）





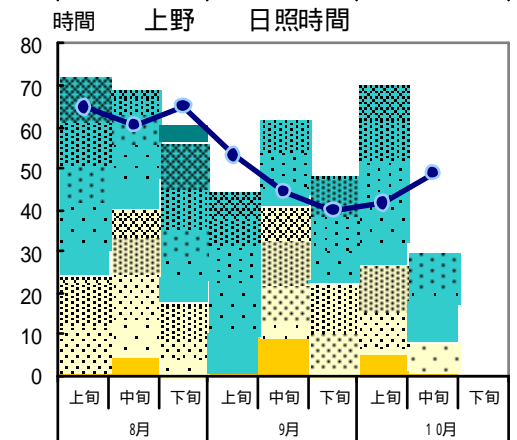
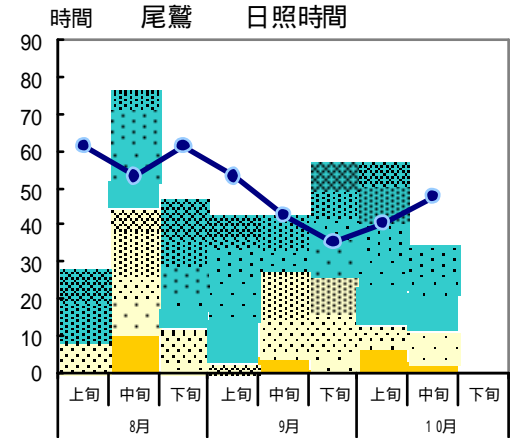
凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- 平年平均
- ⋯ 平年最高
- ⋯ 平年最低



凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値



凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

## 7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

### 1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

### 2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回 4月21日(済み) 第2回 5月26日(済み)

第3回 6月23日(済み) 第4回 7月21日(済み)

第5回 8月18日(済み) 第6回 10月20日(今回)

第7回 3月22日(木)

### 3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

### 4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

[http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h23yohotebiki\\_.pdf](http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h23yohotebiki_.pdf)

### 5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

### 6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

### 7) 気象データの平年値

気象データの平年値が5月18日に更新され、1981年～2010年の30年間の平均値に変わりました。今回の変更により、全国的に平均気温が0.2～0.4程度高くなりました。